

2025 年度 入学試験問題

公募制推薦入試

2024 年 11 月 9 日 (第 1 日)

第 1 限

小論文

注意事項

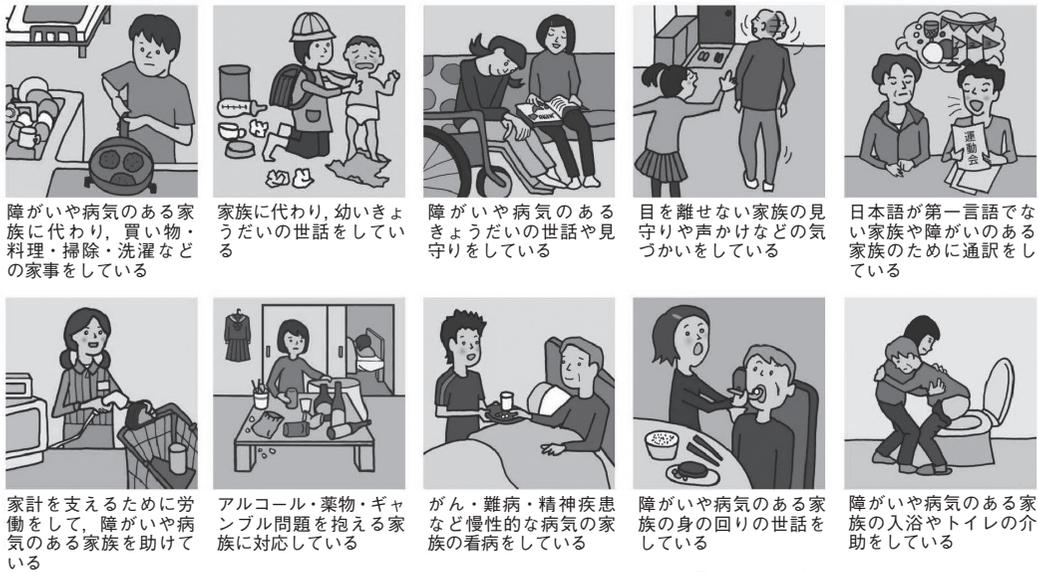
- 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけない。
- 試験中にページの脱落等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせること。
- 解答用紙には、受験番号および氏名を正しく記入すること。
- 問題冊子は試験終了後、持ち帰ること。

問題 次の文章と図を読み、あとの問いに答えよ。

日本は急速な高齢化が進み、介護などのケアを必要とする人は増えているが、ケアの担い手は減っている。こうしたなか、ケアする人（以下、ケアラー）を支える仕組みの重要性が認識されつつある。特に子どもや若者が、年齢に合わない責任を負うヤングケアラーが注目されている。ヤングケアラーとは、「家族にケアを要する人がいる場合に、大人が担うようなケア責任を引き受け、家事や家族の世話、介護、感情面のサポートなどを行っている子ども・若者」をいう（図1のイメージ例を参照）。ヤングケアラーについては、2024年6月に「子ども・若者育成支援推進法」が改正され、支援されるべき対象と明記されたものの、依然として、問題は残されている。

先進諸国では、ケアラーには支援が必要であるとの考え方が定着しつつある。しかし、日本においては、家族が家族の面倒をみることは当たり前とされ、ケアラー自身が抱える問題やニーズに十分な配慮がなされていないことが指摘されている。本来であれば、ケアは親や保護者の責任のもとで、学業や友人関係に費やす時間を圧迫しない範囲で行われるべきである。しかし、その範囲を超えた役割を、ヤングケアラーが担っている場合も少なくない。また、ヤングケアラーであることに対する周囲の認識不足や本人の自覚不足、また何らかのサポートを必要としている状態であることを本人が十分に認識できていない、といった問題も指摘されている。

図2～図6は、ヤングケアラーの実態に関する調査の結果である。図2は、世話をしている家族が「いる」と回答した中高生に、その頻度について質問した結果である。図3から図6は高校2年生を対象とした調査である。図3は、ヤングケアラーが行っているケアの内容を本人にたずねた結果である。図4は、学校生活への影響を、平日1日あたり4時間以上ケアしている人にたずねた結果である。図5は、同じことを平日1日あたりのケア時間が1時間未満の人にたずねた結果である。図6は、ヤングケアラーが望むサービスやサポートをたずねた結果である。



© 一般社団法人日本ケアラー連盟 / illustration : Izumi Shiga

図1 ヤングケアラーのイメージ例（出典：一般社団法人ケアラー連盟）

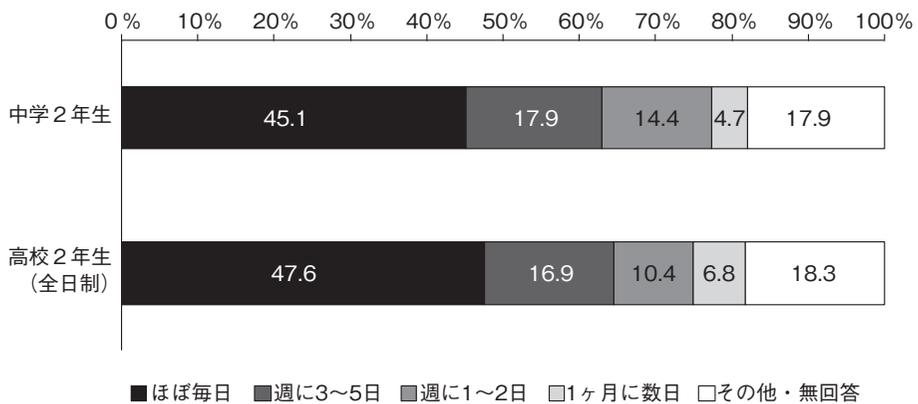
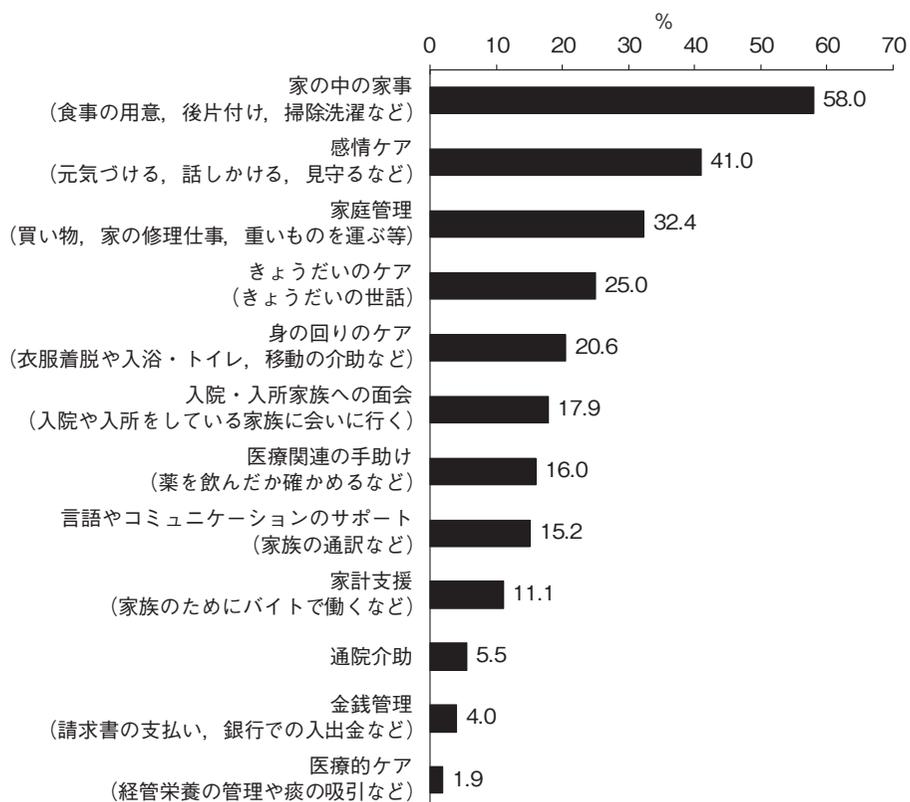


図2 世話をしている家族が「いる」と回答した中高生に、その頻度について質問した結果

（出典：三菱UFJリサーチ&コンサルティング「ヤングケアラーの実態に関する調査研究報告書」2021年より作成）



※医療的ケアの「経管栄養」とは、自分の口から食事を取れなくなった人に対し、鼻や口から胃までチューブ等挿入し、必要な栄養を胃腸に運ぶ方法。

図3 ヤングケアラーが行っているケアの内容（複数回答）

(出典：埼玉県「埼玉県ケアラー支援計画のためのヤングケアラー実態調査」2020年より作成)

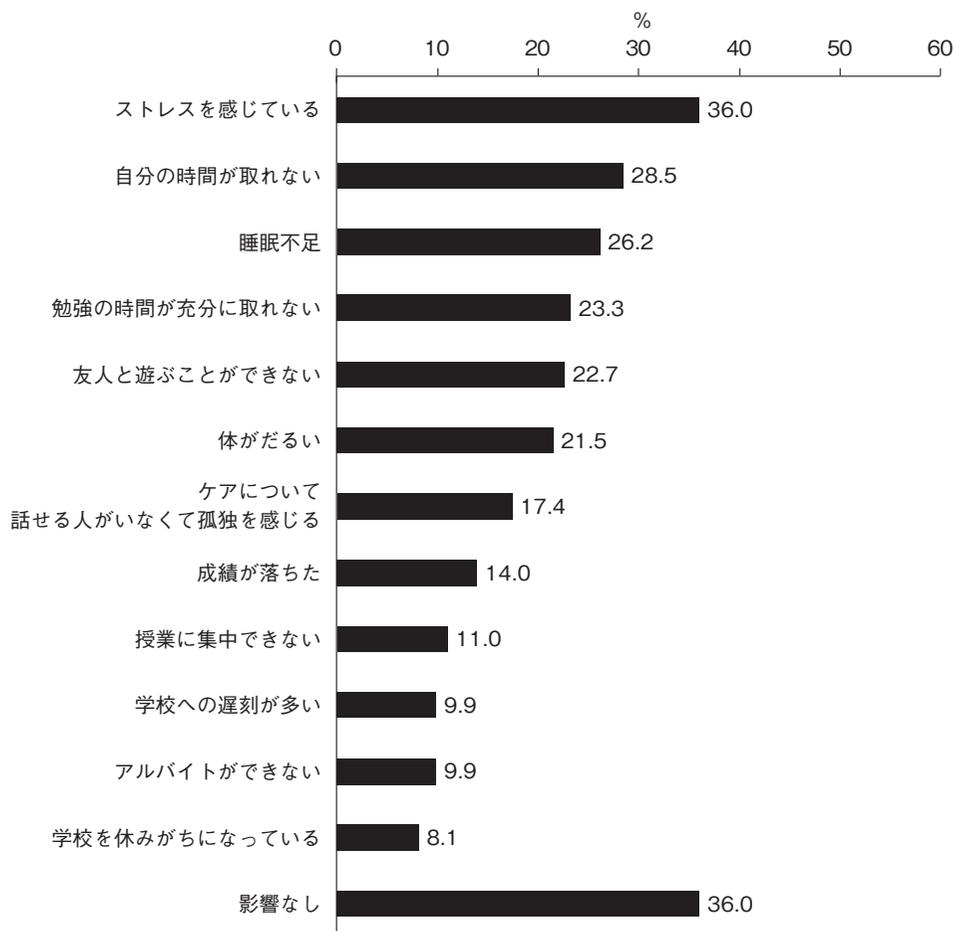


図4 学校生活への影響（複数回答）：ケア時間が平日1日あたり4時間以上の人

（出典：埼玉県「埼玉県ケアラー支援計画のためのヤングケアラー実態調査」2020年より作成）

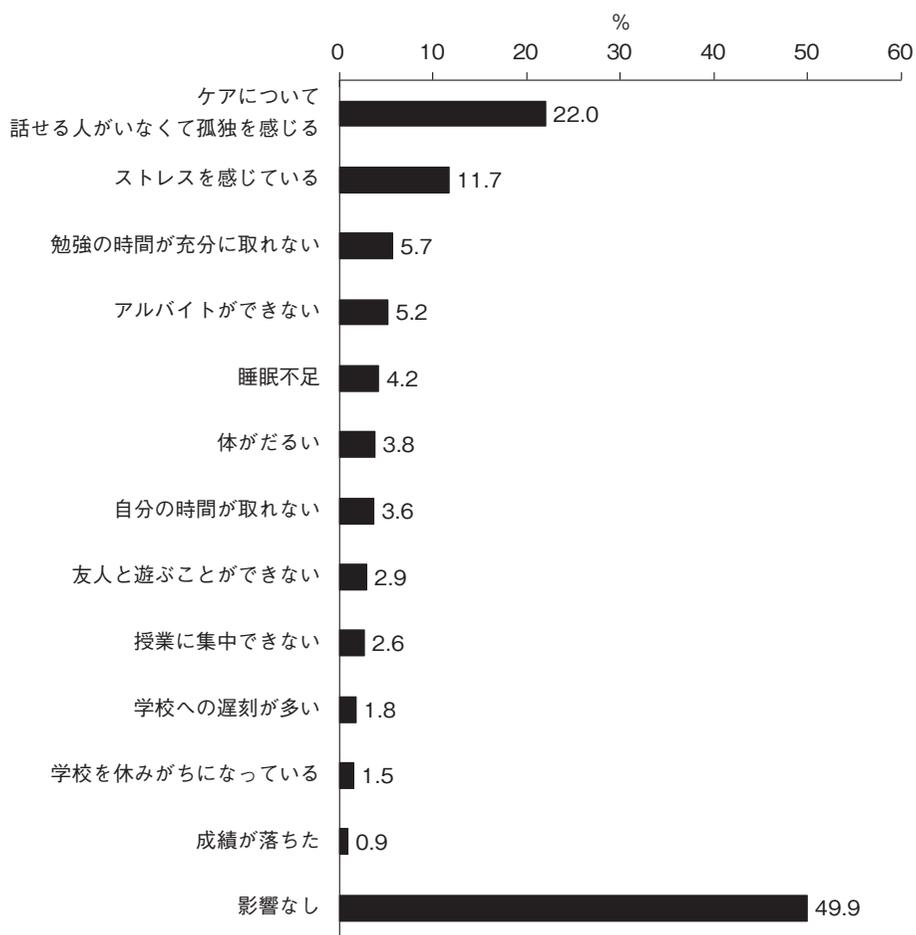


図5 学校生活への影響（複数回答）：ケア時間が平日1日あたり1時間未満の人
 （出典：埼玉県「埼玉県ケアラー支援計画のためのヤングケアラー実態調査」2020年より作成）

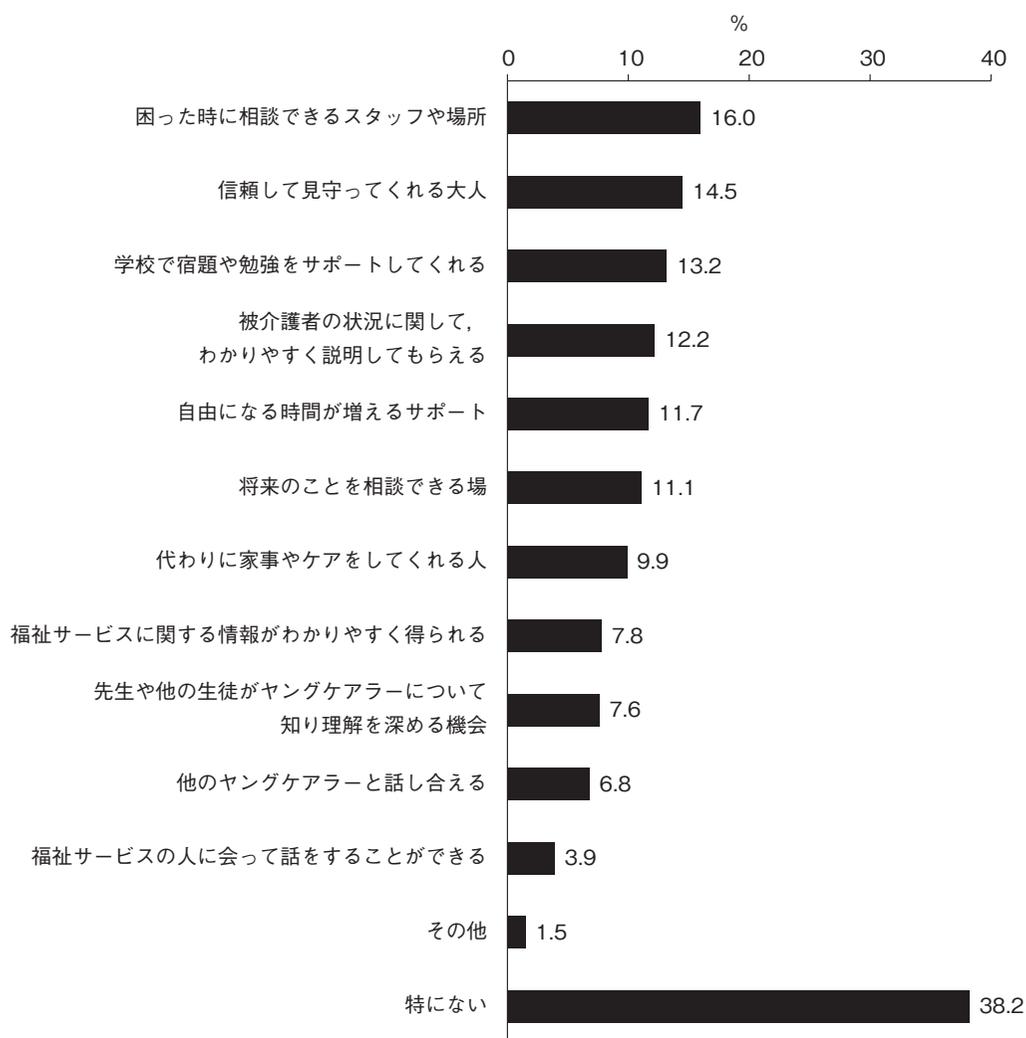


図6 ヤングケアラーが望むサービス・サポート（複数回答）

（出典：埼玉県「埼玉県ケアラー支援計画のためのヤングケアラー実態調査」2020年より作成）

問1 図2および図3について述べた以下の文章について、() 内にあてはまる数値を答えよ。①は小数第一位までの数で、②は小数第三位を四捨五入し、小数第二位までの数で答えよ。

- ・世話をしている家族が「いる」と回答した高校2年生（全日制）で、その頻度が「ほぼ毎日」および「週に3～5日」と回答した者の割合の合計は、「週に1～2日」および「1か月に数日」と回答した者の合計よりも（ ① ）ポイント高い（ポイントとは割合の差を表す）。
- ・ヤングケアラーが行っているケアの内容のうち、「家の中の家事」と回答した者の割合は、「家計支援」と回答した者の割合の（ ② ）倍である。

問2 図4および図5をもとに、ケアによる学校生活への影響について、平日1日あたりのケア時間が「4時間以上の人」と「1時間未満の人」の共通点と違いを200字以内で述べよ。なお、ケア時間が4時間以上の方は「長時間群」、1時間未満の方は「短時間群」と表記してもよい。

問3 図1～図6を参考に、ヤングケアラーの抱える問題に対して、どのような対策や支援を講じることが効果的だと考えるか、400字以内で述べよ。個人や家庭として、学校や地域、政府としてなど、どのような立場での取り組みであっても構わない。なお、ヤングケアラーは「ケアラー」や「生徒」と表記してもよい。

2025 年度 入学試験問題

公募制推薦入試

2024 年 11 月 10 日 (第 2 日)

第 1 限

小論文

注意事項

- 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけない。
- 試験中にページの脱落等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせること。
- 解答用紙には、受験番号および氏名を正しく記入すること。
- 問題冊子は試験終了後、持ち帰ること。

問題 次の文章と図表を読み、あとの問いに答えよ。

近年、ソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）を始めとするインターネット上のサービスは多様化・高機能化が進み、多くの人々がその恩恵を受けている（表1）。遠方の家族や知人と簡単にリアルタイムの連絡を取れるだけでなく、自身の近況を知人全体に気軽に知らせること、見知らぬ人同士で共通の話題を楽しむこと、匿名性を維持したまま自由に意見を発信すること、見知らぬ場所への行き方や評判に関する詳しい情報をすぐに入手することができるなど、昨今の社会はその利便性に大いに支えられていると言えよう。

一方、大きな社会問題となっているのが、匿名性の高いインターネット上での誹謗中傷である。警察庁によれば、誹謗中傷とは悪口や根拠のない嘘などを言いふらすことで他人を傷つける行為であり、インターネット上で誹謗中傷の書き込みをすれば、内容によっては名誉毀損罪や侮辱罪等の刑事責任を問われる場合がある。多くの人々がインターネット上のサービスをより安心・安全に利用できるよう、インターネット上で生じる様々な誹謗中傷への対策を考えねばならない。

図1～図3は、国内の15歳から99歳までの男女2,000名を対象とした、インターネット上の誹謗中傷情報の流通実態に関する調査の結果である。図1は過去1年間に利用したことがあるSNSなどのインターネット上のサービスについて、図2は他人を傷つけるような投稿（誹謗中傷）を目撃した際のサービスについて、図3はSNSなどの各サービスが実装している安心・安全機能（ミュートやブロック、コメント非表示など）の利用率について集計したものである。図4と図5は国内の20代から50代の男女1,000名を対象とした、インターネット上の誹謗中傷に関する意識調査の結果である。図4はインターネット上への投稿経験の有無について、図5はインターネット上に何かしらの投稿を行う際の考え方について、それぞれ年代別に集計したものである。

表 1 主要なインターネット上のサービスの概要

インターネット上のサービス	国内の月間アクティブユーザー数	ユーザー層	特徴
LINE	9,700万以上	全国各地に分布 幅広い年齢層	<p>【主要機能】メッセージング、無料通話、グループトーク、タイムライン投稿</p> <p>【特記事項】公式アカウントを通じたビジネス利用も盛ん。ユーザー同士が特定のテーマや興味を共有するための匿名性のグループチャット機能であるOpenChat、短編動画プラットフォームのVOOMがある。</p>
YouTube	7,120万以上	幅広い年齢層 約4割は45歳以上	<p>【主要機能】動画のアップロード、視聴、共有、コメント機能、ライブ配信</p> <p>【特記事項】広告収入を得られる仕組みがあり、クリエイターのビジネスモデルとしても確立している。</p>
X (旧：Twitter)	6,650万以上	20代が多い 平均年齢は37歳	<p>【主要機能】短文の投稿（ポスト）、リポスト、いいね、ダイレクトメッセージ</p> <p>【特記事項】リアルタイム性が高く、ニュースやイベントの速報、議論が活発である。</p>
Instagram	6,600万以上	10代や20代が多い 女性が過半数	<p>【主要機能】写真・動画の投稿、ストーリーズ、リール、ダイレクトメッセージ</p> <p>【特記事項】ブランドやインフルエンサーのマーケティングに強みを発揮する。</p>
TikTok	2,700万以上	10代や20代が多い	<p>【主要機能】短い動画の投稿、編集、フィードバック機能（いいね、コメント、シェア）</p> <p>【特記事項】短時間で楽しめるコンテンツが中心であり、チャレンジやミームが流行しやすい。</p>
Facebook	2,600万以上	ビジネスで用いる30代以上が中心	<p>【主要機能】投稿、コメント、いいね、シェア、グループ機能、イベント機能、マーケットプレイス（インターネット上で売り手と買い手を結びつける取引市場）</p> <p>【特記事項】長文投稿やグループでのコミュニティ活動が活発であり、ビジネス利用も盛ん。</p>
Googleマップ	Googleが提供するウェブベースの地図サービスであり、主な機能として、地図表示、ルート検索、音声案内付きナビゲーション、施設や店舗の検索とレビュー、カスタムマップの作成、渋滞情報や公共交通機関の運行状況などのリアルタイム情報の提供がある。		
Yahoo! コメント	ユーザー同士が質問と回答を行うQ&AコミュニティであるYahoo! 知恵袋、Yahoo! ニュースの記事に対してユーザーがコメントを投稿できるYahoo! ニュース コメント、株式や金融関連のニュースや銘柄情報に対するユーザーのコメント機能であるYahoo! ファイナンス コメントなどがある。		
掲示板サービス	趣味、スポーツ、ニュース、地域情報など、あらゆる話題を扱う日本最大級の匿名掲示板である2ちゃんねる（現在は5ちゃんねるとして運営）や、地域ごとに掲示板が設けられ、地元の話題やローカル情報が多く投稿される匿名掲示板である爆サイなどがある。		

（出典：主要 SNS の「国内の月間アクティブユーザー数」と「ユーザー層」については株式会社コムニコ「人気 SNS のユーザー数まとめ（2024年7月）」を一部改変）

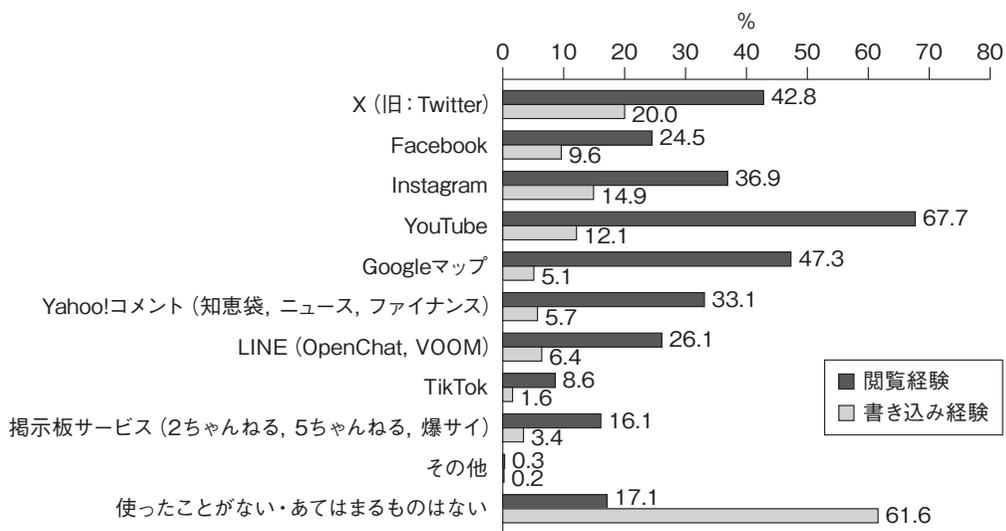


図1 過去1年間に利用したことがあるSNSなどのインターネット上のサービス
(複数回答)

(出典：三菱総合研究所「インターネット上の誹謗中傷情報の流通実態に関するアンケート調査結果」(2022年)を一部改変)

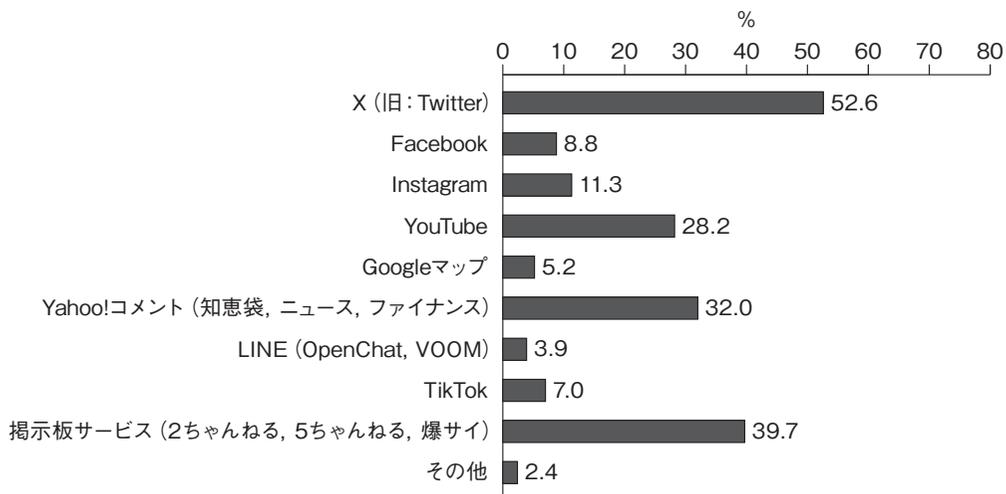


図2 「他人を傷つけるような投稿(誹謗中傷)」を目撃した際のサービス(複数回答)

(出典：三菱総合研究所「インターネット上の誹謗中傷情報の流通実態に関するアンケート調査結果」(2022年)を一部改変)

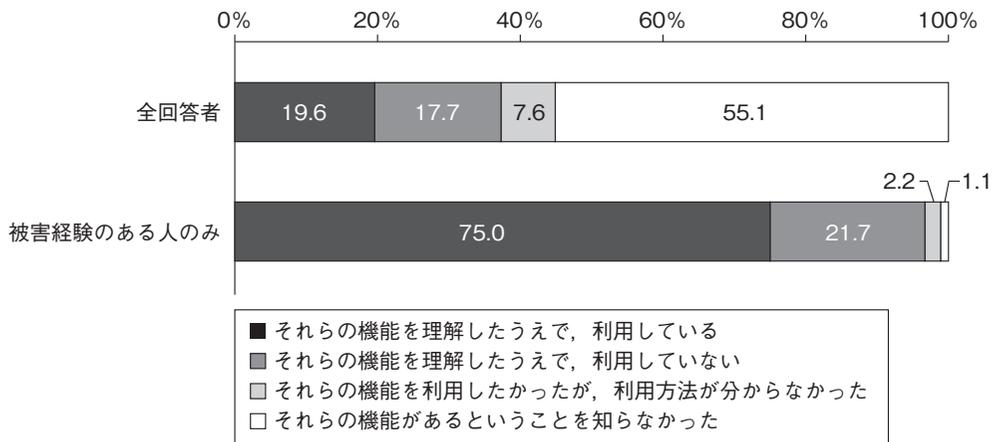


図3 SNSなどの各サービスが実装している安心・安全機能（ミュートやブロック、コメント非表示など）の利用率

（出典：三菱総合研究所「インターネット上の誹謗中傷情報の流通実態に関するアンケート調査結果」（2022年）に基づき作成）

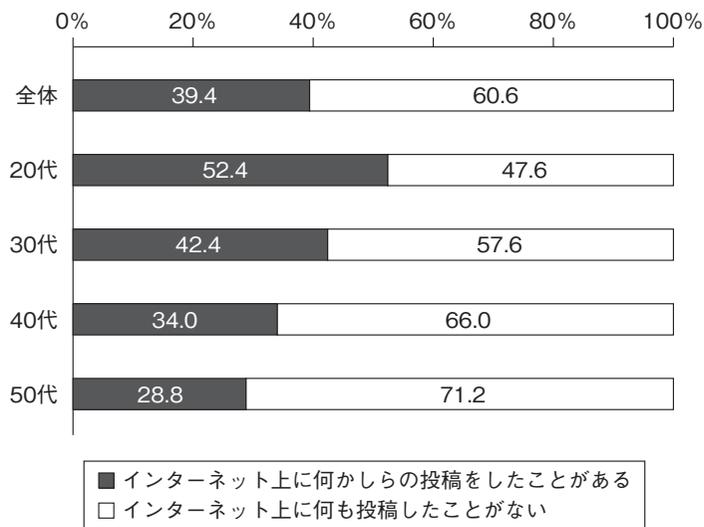
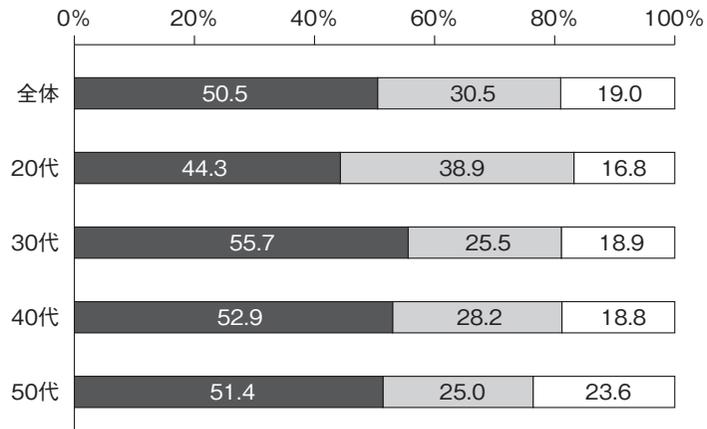


図4 各年代のインターネット上への投稿経験の有無

（出典：ビッグロープ株式会社「インターネット上の誹謗中傷に関する意識調査」（2023年）より作成）



■ 誹謗中傷にならないように必ず確認をして投稿をしている
 ■ 誹謗中傷にならないように気を付けてはいるが投稿をする際毎回確認は行っていない
 □ 何かを考えて投稿をすることはない（何も考えていない）

図5 各年代のインターネット上に何かしらの投稿を行う際の考え方

(出典：ビッグロープ株式会社「インターネット上の誹謗中傷に関する意識調査」(2023年)より作成)

注) 四捨五入の都合上、図中の値を合計しても100にならない場合がある。

問1 図1および図5について述べた以下の文章について、() 内にあてはまる数値を答えよ。①と②のいずれも、小数第一位までの数で答えよ。

- ・過去1年間に利用したことがあるSNSなどのインターネット上のサービスについて、X(旧:Twitter)での書き込み経験があると答えた者の割合は、TikTokでの書き込み経験があると答えた者の割合の(①)倍である。
- ・「誹謗中傷にならないように気を付けてはいるが投稿をする際毎回確認は行っていない」および「何かを考えて投稿することはない(何も考えていない)」と回答した者の割合の合計は、20代の方が30代よりも(②)ポイント高い(ポイントとは割合の差を表す)。

問2 表1および図2をもとに、他人を傷つけるような投稿(誹謗中傷)が目撃されやすいインターネット上のサービスに共通する特徴について、200字以内で述べよ。

問3 表1および図1～図5を参考に、昨今の社会がインターネットの利便性に大いに支えられていることを踏まえた上で、インターネット上の誹謗中傷が生じないようにするためにどのような対策を講じるべきだと考えるか、400字以内で述べよ。個人や家庭として、企業として、地域や政府としてなど、どのような立場での取り組みであっても構わない。

(次ページにつづく)

注) 問 2 および問 3 では、インターネット上のサービスやその主要機能の表記法として、以下の方針を設定する。

- (1) インターネット上のサービスやその主要機能をアルファベットで表記する場合は、解答用紙の 1 マスあたり 2 字まで書いてよい。
- (2) X (旧 : Twitter) については、旧称を併記する必要はなく、X という表記のみでよい。
- (3) YouTube は YT, Instagram は IG, TikTok は TT, Facebook は FB, Yahoo! コメントはヤフコメと略称を用いてよい。
- (4) どのサービスを指すのかが明確に分かるものであれば、Instagram をインスタと表記するなど、上記以外の略称を用いてもよい。
- (5) 独自に設定した略称を用いる場合、はじめにその略称が何を指すのか解答中に明記されていない場合は、誤字扱いとなる場合があるので注意すること。

2025年度 公募制推薦入試 小論文試験

(11 月 9 日)

問題訂正

2ページ 図2の凡例

(誤) 1ヶ月に数日

(正) 1か月に数日

2025年度 公募制推薦入試 小論文試験

(11 月 10 日)

問題訂正

6ページ 問1 8行目

(誤) ……「何かを考えて投稿することはない……

(正) ……「何かを考えて投稿をすることはない……